

# かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

## 「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。

### 【～「認知症」～施設入所の基準は？①】

認知症の家族を自宅で介護したいが、個人では限界を迎える場面があります。アルツハイマー型認知症の寿命は、初期症状から10～15年、介護の平均期間は6～7年といわれます。比較的初期段階には、脳の働きが低下することによって直接的に起こる認知機能の障害(中核症状)があらわれます。つい先ほどの記憶を忘れる「記憶障害」や時間や場所・人物など自分が置かれている状況がわからなくなる「見当識障害」、理解・判断力の低下、言語障害(失語)、失行・失認といった症状ですが、この時点であれば自宅介護は可能です。しかしながら、進行は止まらないため、どこかの時点でやむを得ず施設への入所を検討しなければならなくなる家庭は少なくありません。その際、介護者(する側)、被介護者(される側)それぞれ「身内の介護を離れるべき」状態がありますので、参考にしてください。まず介護者の状態として、時間を取られて心身の余裕を無くすことが問題になっています。余裕が無くなると、被介護者に優しくできずに手を挙げてしまうリスクもあります。クリニックにも「うつ病」や「不眠症」と診断される介護者さんがいますが、余裕を失うのは眠れないのが最大の原因です。深夜帯に平均睡眠時間 5、6 時間程度が維持できなくなったら、早めに手を打ってほしいです。被介護者の状態として、「徘徊」は当然ながら、それ以前の段階で「転倒」が多くなったり、「トイレにひとりで行けなく」なったら、個人の介護の手を離れるようにおすすめしています。[※②に続く。なお、この記事は『日刊ゲンダイ』より転載させていただいております。] (大川昭宏院長)

### 編集後記～スタッフのつぶやき～

皆さま、明けましておめでとうございます。依然、新型コロナウイルスが蔓延、加えてインフルエンザも流行し、感染者が増大しています。私たちを苦しめる「ウイルス」とは一体何なのか、再認識したいと思います。

①電子顕微鏡でしか見えないほど小さい。見た目は鉋物の様である。②一切の代謝(栄養摂取、呼吸、排泄など)を行っていない。③自己複製能力を持つが単独では何もできない…などの特徴があり、「生物か無生物であるか、いまだに決着していない」(福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』より)そうです。 (K)

医療法人財団ファミリー

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町 1-41-1 桜井ビル 2階

① 外来：心療内科＝大川昭宏院長、永井妻子副院長  
内科＝駒形清則医師 (第2・第4火曜のみ)

②訪問診療

内科＝駒形清則医師

駒形明紀医師(非常勤)

精神科＝米谷充医師(非常勤)

神経内科＝今井壽正医師、西岡健弥医師(非常勤)

※詳しくはホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせ下さい。

電話 03-3627-0233